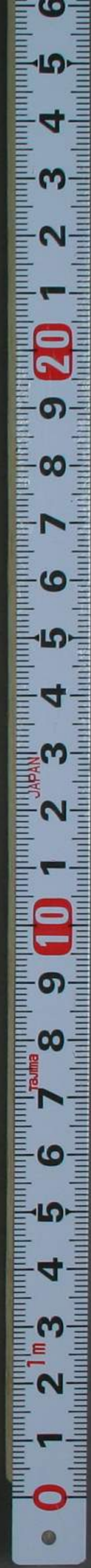




東洋遺稿

曾  
651







故小野梓先生肖像

故小野梓先生遺墨

病毛は歸りし後、熟思ふに、畢竟斯く藩聽の東傳を受くるに、必竟帯  
 刀の身にて士分の列に在らば、然るなり、（帯刀を以て、今より士分と稱し、平人と為すの  
 身と自由ならず、とて今日の上策ならず、とて、日其由と萱芸家兄等、不話し  
 平人の頭と出すこと、（たゞ、然るに伊垣公之を聞き、屈けるま、考め、據る  
 く他家へ養子不往、躰にて平人と為りたり、ま、この平人不為る事、執きて、人  
 と大抵その短氣なるを、秘め、今時の平人で、ま、士林に在りたり、思ひ、脇ざし  
 の一本も、差し、憂思ふ世の中なる、不態、帯刀と、抜き、捨て、平人と為ると、小  
 減志得、遺ひ、存る由と、さ、や、ま、な、れ、余、に、見、る、所、所、ま、い、り、な、し、我、の  
 心、ま、ま、く、世、に、笑、か、り、と、堅、く、乞、ひ、遊、ぶ、平、人、と、い、ひ、ま、き

故小野梓先生ノ遺稿中自家ノ經歷ヲ手記セル一冊子アリ  
 右ニ掲ゲシハ其一節ニシテ手跡ノ儘ヲ寫眞石版ニ附セシ  
 モノナリ



東洋雜俎

貨幣、制ハ硬貨ノ主義ヲ持ス

諸君 我カ帝國ハ今、時ニ當テ理財上如何ナル事

情ニ臨リタル邦土ト申スヘキカ諸君ハ斯ノ答ヲ

ル三十五百余万ノ年聖ヲ見テ理財上如何ナル地位

ニ立ラルモト思ヘル年富々ルト思ヘルカ貨レキ

ト思ヘルカ我邦土ノ為メ我同胞ノ為メ之ヲ明言ス

思ヒタルモコノ堂シタル帝國トコノ答レタル人民

ハ今ニ至ラ猶ホホ々富マス依旧貨田ニシテ富シ

リノ章極メ人々ハリノ財産ヲ安ニスルコト能

ハ不買氣ニ鼓動在リト是レトテ言フ

ハヤハ事案アリト明言スルナリ何故ニ斯ク高エハ

東洋雜俎



東洋通商

東洋通商

人々ハソノ財産ヲ安ニスルコト能ハカ  
 カ蓋シ是レ種人故アリシテ其氣源ヲ通貨  
 引キ之ニ由ラ之ヲ来メシムルモ又其  
 ノ既ニ熟知セハカ如ク通用貨幣ハ貿易  
 格ニ大量スルノ器械ニシテ天下ノ富財ヲ  
 増殖シ之ヲ分配スルノ途ニ於テ甚ク切  
 措ヲ為スニナリサレバ完全堅固ノ主義  
 貨ノ制ヲ定メ之ニ依テ夫ノ貿易ノ仲  
 量スルノ器械ヲ製作スルハ一國ノ治安  
 ノ一大要ナリト得ハカハ得ル觀ニテ夫  
 亦理財ノ要也

學者ノ通貨ノ性質能ク用テ觀ルニ各  
 ナニシテ往ニニシテ彼此ノ一致ヲ全  
 角モ夫ノ健全ナル利便アルヲ以テ通  
 ナリト謂フニ至テハ古今宇内ノ財理  
 行フ者雖ニト皆ナ一致共ニハカ如ク  
 ニ熟知セハカ如ク陸古以來宇内万邦  
 進度ト其居所ノ土地ニ依テ種々ノ物  
 通貨ノ用ニ供セシト角モ往ニニシテ  
 ルニト角ハ又往ニ之ヲ白銀ト黄金ト  
 ナラ查出レバ如ク白銀ト黄金ト云ヒ



通貨ノ能申ニ是備セシモノト云フハナラズルモ  
 モ之ヲ以テ是銀ト赤銅ト比スルハ其安全ニシテ  
 便利ナル者ト云フモ異ナラズルモ其安全ニシテ  
 況ンヤ之ヲ以テ夫ノ穀物靴皮具類等ニ比スルニ至  
 リテ其安全ニシテ而モ便利ナル者ト云フモ  
 ナラズルモ其安全ニシテ而モ便利ナル者ト云フモ  
 ハス人短ノ所ナリ也 改定 是レ洋ノ東西海ノ内外ヲ回  
 トツ以テ通貨ノ用ニ供セシ所以ニシテ東西強ニト  
 皆節ヲ合セタハカ如キハ抑又是レ天地ノ大法ニ依  
 ハナリテユルコト曰ク白銀ト黄金トハ實ニ宇内

伴ノ字

國土ノ通貨タリ而シテ其宇内 右 國土ノ通貨タル所以ニ  
 人ニ特種ノ約束 ル 由ルニシテ人法律遠近ノ成  
 カニ ル 然ルニシテ實ニ事物ノ本質大勢ニ由リ  
 然ルモノナリト蓋シ之ヲ滑ラナリ  
 而シテ白銀黄金ハ通貨タルノ能カラ備フト銀ニ夫ノ  
 價 ル 高貴ナルト夫ノ之ヲ遠方ニ運搬スルノ不便  
 ルヲ以テ後世通商貿易ノ繁多ナルニ及シテ又別ニ  
 其信用ヲ代表スルノ器物ヲ查出シ以テ其不便ヲ避  
 ケザルヲ得ル是レ紙幣若クハ手形ヲ作りタル根元  
 ニシテ其實硬貨ノ信用ヲ代表シ以テ其不便ナル所



ノモノヲ福也夫ノ白銀革命ヲシテ通貨タルノ能用  
 ラ全フスルヲ得セシメタルモノニ過キス是ヲ以テ  
 餓ニ其國土理財ノ法規ニ依テ紙幣ヲ発行スルコト  
 アルモ必ラス硬貨ヲ基礎トセル制度ニ  
 於テ割合ヲ立テ之ヲ発行セサルコト得ズ否ナ硬貨ノ  
 主義ニ基テ適宜正當ノ割合アル兌換ノ紙幣タルナ  
 ルヘカヲ而シテ其兌換ノ法ハ不換紙幣ノ實例ナリ兌換ノ紙幣タルナ  
 何ナル理財ノ法規ヲ行ヒ如何ナル利害ヲ蒙リタル  
 カヲ講スルニ佛國以下大抵皆ナ不換紙幣ノ弊害ヲ  
 蒙ラサルモノナリ而シテ其害ヲ蒙ル順序及其終

顧ニ  
 大抵  
 殆ント

始ノ事情ヲ考ルニ皆同一轍ニ出ルカ如シ佛國革  
 命ノ歴史ヲ讀ミタル人ニ記憶スルナラン今ヲ去ル  
 ニト九ソ一有年十年前我々寛政元年ノ頃ニ當テ佛  
 國ニ革命ノ時運ニ際シ其政府ノ財政ハ艱難ノ極ニ  
 達シ租税ノ民ヨリ入ラスコトテ政費官ヨリ出テ幣ニ  
 之ヲ久シキニ支テヘシモアラサレハ國會ノ財務委  
 員ハ官有ノ土地ヲ抵当トシテ紙幣ヲ發行セシムコト  
 ヲ建議シ國會ハ時ノ宰相涅河カ畢生ノ力ヲ極メテ  
 非政ナルヲ論シタルニ拘ハテス終ニ其議ヲ以  
 レ四億万ヲ發行スルニ紙幣ヲ發行スルニ居ルコト強



一、一年新紙幣、漸々市場、信用ヲ得、流通自在ナ  
 ルニ及ンテ政府、短視ニシテ遠大ノ見識ナキコノ  
 都合ヨキ有様ニ憤レコノ少額ヲ以テ自カテ満  
 足スル試ハス忽チ第二回ノ発行ヲ為スニ至リ初  
 ノ紙幣増発ノ議起ルヲ涅河ハカ論夫ノ第一回紙幣  
 ノ発行ヲ隨成シタルタレラントレ、如キモ極メ  
 テ其非策ナルヲ駁シ終ニ揚言シテ諸君ハ思ハサレ  
 ヤ佛國人民ヲシテ強チ金貨ノ代リニ低幣ヲ取ラシ  
 ムルヲ得シモ低幣ノ代トシテ金貨ヲ出サシムル  
 如何ケル感カシ以テスルモ之ヲ強エルコト能ハズ

其短視ニ惑ヒ遠大ノ見識見ニ乏シク刺々第一回發行  
 為メ一二ノ弊害ヲ見ルコトトキニ慣レ之ヲ増發  
 スルモ猶ホ此ノ如クナラント想シ不幸ニモ亦  
 増發シタリ是ニ於テ佛國四十万ノ人民ハ前後十  
 二億方法ヲシテ、低幣ヲ流通シ漸々霜ヲ降テ堅氷  
 ニ遇テ、不幸ニ路レリ然レトモ當時佛國ノ政事家  
 ラシテ其誓約背スコト十二億方却テキル、總額  
 ヲ以テ自カテ畫シ之ヲ回収スルヲ勉メシメツコト  
 二、夫ノ四十万ノ人民ヲシテソノ財産ノ半額ヲ以



夫スルニ至ラシムカラシモ彼レ社會ノ利益ヲ忘レ  
 タル政事家ハ其ノ貴重ナル約束ヲ履行スルヲ為ス  
 第二回増發ノ後未タ一ヶ年ヲ經サハニ又若干億  
 ノ大額ヲ發行シ愈々出テ愈々其信用ヲ損<sup>傷</sup>通貨  
 ノ制是ニ於テ半始ニト言フヘカラサル事情アル  
 陷井リタリ諸君ノ熟知セルカ如ク善惡ニ辨<sup>別</sup>通  
 貨アリテ一國ノ中ニ併ヒ行ハルニトキハ善良ノ通  
 貨其跡ヲ市場ニ施テ醜惡ノ通貨唯リ國內ノ貿易ヲ  
 媒スルニ至ルハ古今一定ノ理則ナレハ夫ノ不換紙  
 幣ト硬貨トノ併行スルトキモ亦自カテソノ通則ニ

通貨

抑テサルヲ得ニ而シテ佛國ノ如キハ亦此通則ノ支  
 配スル所トナリ硬貨ハ漸ク隱レテ或ハ富豪ノ藏中  
 ニ隱レ或ハ海外ノ市場ニ送ヒ唯リ紙幣ノミアリテ  
 國內ノ市場ヲ面守居シ佛國至ル所殆ント低ナラサ  
 ルハ十キニ至レリ是ニ於テ半タラシトノ預言果  
 シテ效驗アリ誰レ一人トシテ硬貨ヲ出シテ之ヲ低  
 幣<sup>紙幣</sup>トシテモナク設ヒ威力ヲ以テ之ニ應ル<sup>紙幣</sup>之  
 ヲ強ユルコト能ハサルニ至レリ此時ニ當テ紙幣ノ  
 價ハ三割以上ノ下落ヲ為シ夫ノ徒々數多ク低幣ヲ  
 發行シタルニ相ハラス市場ハ常ニ通貨ノ欠乏ヲ許



東洋雜作

一商賣ハ振ハス工業ハ衰  
大抵皆ノ衰業ノ衰運ニ至ラ  
正人ハ期月ヲ出ラスニテ成  
頭食ヲ乞フ者幾方ヲ以テ教  
持ニ商工ニ從事セシモノノ  
其財產ヲ安固スルコト能ハ  
貿易ハ地ヲ拂テ存セム唯リ  
其利ヲ細セニコトヲ笑ヒ負  
我邦ノ輕減スルヲ喜ヒタル

三ノ漫説

8

△

慘状ゾノ極ニ達シ其暗澹  
事情ニ憂慮スルヤ如何ニシ  
二当時保國ノ政事家ヲシテ  
慘状ヲ療医スルノ良心ヲ起  
ルノ大志ヲ立テラワシメン  
快ハ猶ホ之ニシテ止マザラ  
若ハ迷フテ暗ラス一時暫  
全駄ト逼迫シテ商工ノ衰頹  
カ故ナリト誤解セリ是ニ於テ

手記  
主成  
硬埃  
其後  
其後  
其後  
其後  
其後

東洋雜作



シテ止マニ年々之ヲ増加シテ四千五百億方  
 ヲノ総額ト為ス如ク紙幣ノ額増加スルニ從ヒ  
 其價格隨テ減シ流通ノ額愈々増加シテ價格愈々  
 減少シ到テハ白目義瑞ニ於テソノ紙幣ノ價  
 値シタルカ為メ益々其價格ヲ減殺シ此ノ時ニ當テ  
 二十圓ニ相當スル紙幣ノ僅ニ六百文ヲ價ニタリト  
 始ント虚言ノ如ク然レトモ是レハ是ノ暗濫  
 々ハ慘狀ニ米國ニ英國ニ魯國ニ亞ニ伊太利ニ埋地利  
 二ノ頂紙幣ヲ發行シタルモノト始ント皆十  
 其料理ヲ誤ルモ△

東洋雜作  
 其料理ヲ誤ルモ△

0

諸君ハ此紙幣ノ始末ヲ問フ如何ニ感覺シヤ心ア  
 ランモノハ必ラハ異常ノ感覺ヲ起シ是レハ一百年  
 前ニ在テ百五里外ノ佛國ニ起リタルコトナリ我帝  
 國ノ社會ト相干スコトナシト云ハサルヘシ否ナク  
 少シ差無實嚴ハ之レアラシモ我帝國ト我人民ハ  
 時始ント佛國人民カ一百年前ニ遭遇シタル思ハ  
 事事情アル困難ニ陥リタルヲ曉ハナラン我邦維新  
 初メ紙幣ヲ發行シテ東北ノ戦争ヲ鎮定シテ以テ  
 廣藩置縣ノ為メ華士族ノ祿制ヲ改革スル為メ西南ノ  
 騒亂ヲ鎮定スル為メ政治ノ改良ヲ要スルニ際シ一

東洋雜作



カ

億<sup>百</sup>萬ノ紙幣ヲ發行スルニ至リテ其影響ヤ  
 布ヒテ十三年度ニ及ビ十三年何月頃ハ殆ント何割  
 何分ノ下落トマテニナリ商工ノ衰頹財產ノ不安  
 ト佛米ノ覆轍ニ陥ラントマルカ如ク書附ナリ  
 倒<sup>レ</sup>シトシテ當時財務大臣ハ此意ヲ制シ保  
 全<sup>シ</sup>國ニ拍ハテス低幣ヲ漸ク其信用ヲ薄ク二三  
 ノ方策ヲ案シテ之ヲ朝ニ建議シ其中ノ一策ヲ仰シ  
 テレテ漸ク硬貨ノ主義ヲ実行スルノ地出ヲ成シタ  
 リキ是レ諸君カ明ニ憶起セラハレ所ニシテ夫ノ低  
 幣消却ノ元資ニ充ツルカ為メ年々一千五百万ノ節約

當時財務大臣ハ此意ヲ制シ保全シ國ニ拍ハテス低幣ヲ漸ク其信用ヲ薄ク二三ノ方策ヲ案シテ之ヲ朝ニ建議シ其中ノ一策ヲ仰シテレテ漸ク硬貨ノ主義ヲ実行スルノ地出ヲ成シタリキ是レ諸君カ明ニ憶起セラハレ所ニシテ夫ノ低幣消却ノ元資ニ充ツルカ為メ年々一千五百万ノ節約

又ハノ布告ヲ為シ検査統計ノ兩院ヲ置キ各廳ノ會  
 計ヲ監査セシム其故課ヲ案セシム又會計法ヲ并  
 キタルカ如キ皆ナキ時財政ノ務ニ當リタル大臣カ  
 財政ヲ整理シソノ初志ナル硬貨主義ヲ実行スル  
 地出ヲ為サントセシ建議ノ趣意ニ基キタルモノソ  
 カシ  
 斯ノ如クニシテ我帝國ハ一國未曾有ノ大改革ヲ買  
 フカ為メニ紙幣ヲ發シ漸クソノ發行額ヲ増レタル  
 カ為メニ其信用ヲ薄クシタルカ為メニ保全シ國ニ  
 財產ニ不安國ノ事情アルヲ致サシメタルハ殆  
 三

其信用ヲ薄クシタルカ為メニ保全シ國ニ財產ニ不安國ノ事情アルヲ致サシメタルハ殆

三



伊蘭西若クハ米洲

邦其カ未嘗有改革ヲ行フ

カ為メニ紙幣ヲ發行シタル事始メテ

節ヲ合セハハニウニ截リシ如キ有様アルハ誠ニ天

然定則ヲ踏ミタルモノナリト云フ一然レト

モ我帝國ノ人民ハ顧ミテ如何ニテ本邦紙幣ノ慘状

ハ佛國共國ノ如ク深甚ナラシテ而モ彼レカ

急遽ナリサリシハ吟味セサルハカラズ諸君試シテ

日併圖ノ如キハ初度發行ノ後未ダ三年ヲ出ラサル

ニ紙幣ノ價格ハ既ニ減レテ三割以上ニ及ビ當時諸

製造場ハソノ門戸ヲ絶テ商業ハ衰微シ職人ハ食ニ

離レ十字街頭ニ佇立シ覩然食ヲ乞フ者幾万人ナルヲ

知ラス堂ニタル佛國中ノ饑鬼ノ境界ヲ現出シタル

非之ニ及ビ本邦ハ明治初年之ヲ發行シタル後十有

余年ノ星霜ヲ經過シ終ニ十三年ノ初ニ及ビ其ノ價

格ヲ割内外ニ体下シタルノミナラズ商業ノ衰頹工

業ノ減絶貧人ノ窮迫物價ノ昇降不定未ダ嘗テ佛國

當時ノ如キ過慘ノ域ニ至ラザリシヲ果シテ是

レ故アリシ諸君ハ如何カ是レ其源因ナリト思フ

ハ蓋シ種々因縁アリシモ當時ノ財源ニ當リタル大

臣カ其就職ノ初年ヨリ終始硬貨ノ主義ヲ操持セ

東洋雜作

東洋雜作











東洋書

九十四年之遭遇（シカ）如之慘劇、禍害、臨ラス

今日（右様）保持スルヲ得タル（リ）（謹徳）

之ヲ要スルニ紙幣ヲ發行シタルカ爲メ多サノ（筆）紙幣

ヲ日本ニ醸シタルモ又幣十々多サノ（筆）紙幣

利（リ）官ノ僕ノ不足ルモノトシテハ（筆）紙幣

ラ（筆）制度ノ改革スルヲ爲サハ紙幣ノ言ハス

シキ痕跡ヲ残サスレテ之ヲ廢匿スルヲ得（筆）紙幣

今ノ時ニ當リ誰レカ（筆）制度ノ改革シ、之ヲ廢匿

スルノ責ニ當ルモノ（筆）呼、當時紙幣ノ發行ヲ始メタル

三岡君（筆）呼、既ニ政事世界ヲ去ラ今在ラヌ大隈君（筆）呼

君ハ其志（筆）ハ今野ニ在テ之ヲ實行スルノ權ヲ

有セシ（筆）今ノ時ニ當テ之ヲ料理スルハ言ハマラ

モナリ在廷ノ諸君ニシテ大藏卿、内閣、諸君、

皆同小、責（筆）任、此ノ堂々日本帝國ヲシテ

佛民ハ九十四年後ニ陥リタルカ如キ慘忍極リタレ

悲情ニ陥ラシムルノ之ニ陥ラシメサルトハ一ニ現

時、内閣諸君カ硬貨ノ主義ヲ断行スルト之ヲ断行セ

ハルトニ在（筆）リ、紙幣ヲシテ利害相償ヲモノト

爲スト、爲（筆）カ今日断行スルトセサルト

一點ニ関ヤリ諸君ノ責任ニ在テ甚ク重シト云フ

東洋書







東洋雜作

紙幣七百五万円日自度決算期限即ち明後十  
 七年二月... 準備金増加...  
 準備金ノ貸付... 再行... 七十五  
 年度ノ豫算ニ各廳ノ定額等ヲ増加シ及ヒ三年塔置  
 年ノ市官... 是レ政府ノ硬貨主義ヲ実行  
 スル... 準備金... 果... 必キス深キ仔細  
 リテ硬貨ノ主義ヲ実行スルニ便利ナルコトナリ  
 唯々余ヤ不才無識未タ其利ヲ查出スルコト能ハサ  
 ルナリ諸君ハ聰明ナリ公衆ハ公平ナリ顧テ必  
 スソノ理ヲ查出シ得ルナリ... 準備金... 其利ヲ  
 出スル... 準備金... 其利ヲ...

東洋雜作

ント欲スルナリ  
 之ヲ要スルニ余ハ立憲政進虎ノ一人ニシテ其冀望  
 同ナスルモノナシハ我帝國ノ通貨ノ制ニ必ラス  
 硬貨ノ主義ニ拠ラニコトヲ冀ヒ時勢ト人情トヲ察  
 レ漸次不換紙幣ヲ額却シテ成金銀貨ノ通用ト  
 為ス半若クハ不換紙幣ニ拘ラレニ確實堅固ノ割合  
 ラ以テ發行スル兌換紙幣ヲ以テセンコトヲ冀望ニ  
 ハナリ知ラズ未聴ノ諸君否天下ノ公衆ハ我党ノ冀  
 望ト其志望ヲ同スルナリ否大喝米